修文大学紀要（Bulletin of Shubun University), No. 15, pp.9-14（2023）

研究ノート

医療系大学生における新型コロナワクチンに関する意識調査
Study on the awareness with regard to vaccination of Covid-19 among university students of medical sciences

清水　将紀，成瀬　諒太，吉田　佳督

要　旨

2019年12月から約３年半にわたり，新型コロナウイルス感染症は全世界で生活上の多くの制約をもたらしてきた。当初より指定感染症として二類相当の感染症対策がなされてきたが，2023年５月８日に五類感染症に類型が変更となったところである。本感染症への唯一ともいえる有効な対策はワクチンの接種であったが，感染を避けるために一刻も早く接種したいという声がある一方で，開発されたmRNAワクチンは未知の副反応が大いに懸念されてもいた．そこで東海地方の医療科学部臨床検査学科の１年男子と女子各２名及び２年，３年の男子各１名の計６名を対象に新型コロナワクチンに関する意識調査を実施した。質問事項は，調査対象者の基本属性，新型コロナワクチン接種への認識，将来のわが子への定期ワクチン接種に対する認知などである．ワクチン接種については，３名が積極的，２名が消極的，１名がやや消極的という回答であった．一方，将来親になった際にわが子に，定期ワクチンの予防接種を打つことに積極的，あるいは消極的のどちらかという質問については，６名ともに積極的であった．ゆえに今回の調査結果から，新型コロナワクチン接種への抵抗感は，新しい機序のmRNAワクチンであり，有効性・安全性に関するデータが必ずしも十分でないということが大きな要因であると推察された．

キーワード：新型コロナワクチン，重症化，副反応，認知，定期ワクチン

2023年11月24日受付，2023年12月７日受理

Ⅰ．はじめに

2019年12月から約３年半にわたり，新型コロナウイルス感染症は全世界で生活上の多くの制約をもたらしてきた。当初より指定感染症として二類相当の感染症対策がなされてきたが，2023年５月８日に五類感染症に類型が変更となったところである。本感染症への唯一ともいえる有効な対策はワクチンの接種であったが，感染を避けるために一刻も早く接種したいという声がある一方で，開発されたmRNAワクチンは未知の副反応が大いに懸念されてもいた．そこで本感染症への認識が風化する前に，この新型コロナワクチンに対する半構造化面接調査をしておくことが，今後の同様な感染症のパンデミックの際のワクチン接種のあり方を検討するうえでの考えるヒントになるのではないかと考える．

新型コロナワクチン接種については，２度の接種により重症化を防げることがブースター効果として明らかとなっている[1)]．一方，新型コロナワクチン接種では，世界的に「７割の壁」が課題として挙がっていた．この点に関する研

修文大学医療科学部

究報告としては以下のものがある．まず，2021年になされた東京都による「東京iCDCリスコミチームによる都民意識アンケート調査結果」[2]では，新型コロナワクチン接種に積極的であると回答した割合は72.3％であった．ワクチン接種に消極的な理由としては「副反応が心配（58.2％）」などが挙げられた．同じく東京都による「新型コロナウイルス感染症対策（ワクチン）に関する意識調査」では，新型コロナワクチン接種に積極的と回答した割合は85.4％であった[3]．ワクチン接種に消極的な理由としては「将来の健康被害や後遺症が心配（60.5％）」などであった．同，ニッセイ基礎研究所による「新型コロナワクチンをすぐには接種しない人の理由と特徴」[4]では，すぐには接種を希望しない理由として，「安全性への不安」などが挙げられた．

医療系大学生における新型コロナワクチンに関する意識調査に関する先行研究としては，2021年に吉田らが「新型コロナウイルスワクチンに対する医療系大学生への半構造化面接調査結果」を発表している[5]。この先行調査では，新型コロナワクチン接種及び子宮頸がんワクチン接種に関する事項について，医療系大学で学ぶ１，２年生それぞれ男女３名の計12名を対象として実施している．今回は，１年男子２名，１年女子２名及び，２年男子１名，３年男子１名の計６名について半構造化面接調査を実施したので，その結果を報告する．

Ⅱ．方法

医療社会学の分野や心理学で広く用いられている半構造化面接法を用いて調査を行った[6,7]．具体的には，東海地方の私立大学の医療科学部臨床検査学科の１年男子２名，女子２名を対象に2023年４月26日に半構造化面接調査を実施した。２年男子１名，３年男子１名については同年４月28日に実施した．調査にあたり面接調査への協力に関するインフォームドコンセントを行った．調査は修文大学の研究倫理審査委員会の承認（承認番号および承認年月日；2022SR008（2022年10月８日付））を受けた後に実施した．

質問事項は，表１に示すとおり，調査対象者の基本属性（性別，学年，自宅・下宿，新型コロナウイルスの罹患の有無，ワクチン接種の有無，ワクチン接種後の副反応の出現の有無），近い将来の新たな感染症パンデミック時のワクチン接種への態度について，将来のわが子への定期ワクチン接種に対する態度についてである（表１）．面接の所要時間は１人あたり20分から30分であった．面接内容は，対象者の了解を得た後，筆記にて記録した．

Ⅲ．結果

個別面接調査時にそれぞれの対象者の発言内容を記述した記録紙を本研究の分析対象とした．

表１　新型コロナワクチン接種への関連質問事項（半構造化面接調査）

	調査内容
1	基本属性（性別，学年，自宅・下宿，新型コロナウイルスの感染の有無，ワクチン接種の有無，ワクチン接種後の副反応の出現の有無）
2	新型コロナワクチンを接種することに，積極的でしたか，あるいは消極的でしたか．
3	今後，５年先，10年先に，新たな感染症がパンデミックになり，その対策としてワクチン接種が可能となった場合には，その接種に対して積極的，あるいは消極的のどちらですか．
4	今後，結婚して親になったと仮定した場合に，わが子（赤ちゃん）に，定期ワクチンの予防接種を打つことに積極的，あるいは消極的のどちらですか．

1．調査協力者の属性

表２に調査協力者の属性を示した．１年生の男子２名，女子が２名，２年生と３年生がそれぞれ男子１名の計６名であり，１名が下宿生，５名が自宅生であった．新型コロナウイルス感染症に罹患したものはいなかった．

ワクチン接種については，２名が４回接種，３名が３回接種，１名が２回接種であった．ワクチン接種後の副反応については，回数を重ねることに発熱，頭痛，寒気などの症状が重く出ていた．また２回目接種後に，より高熱を発するなど副反応が重くなっていた．

2．新型コロナワクチン接種への態度について

新型コロナワクチンを接種することに積極的であったか，消極的であったかという質問に関する調査協力者の意見を表３に示した．

まず，３名が積極的であると回答した。消極的な回答は２名，やや消極的な回答は１名であった．積極的な理由としては，重症化リスクが高い祖母と同居していることから早く打ちたい，接種後に学校を休めるから，かかったら嫌だからなどという意見が挙げられた．一方，消極的な回答としては，インフルエンザワクチンと比較して，できて間もないので心配である，新しいワクチンなため，良くないものが入ってそう．体内でよくないことが起こりそうという意見があった．やや消極的な回答としては，色々なニュースで後遺症に関する記事を見たからという意見であった．

表２　調査協力者の基本属性

	Aさん	Bさん	Cさん	Dさん	Eさん	Fさん
性別	男性	男性	女性	女性	男性	男性
学年	１年生	１年生	１年生	１年生	３年生	２年生
自宅・下宿	自宅	自宅	自宅	自宅	下宿	自宅
新型コロナウイルスの感染の有無	なし	なし	なし	なし	なし	なし
ワクチン接種の有無	２回接種	３回接種	４回接種	３回接種	３回接種	４回接種
副反応の出現の有無	１回目：肩の痛み，だるさ	１回目：なし ２回目：肩の痛み，熱発39.8° ３回目：熱発37.5°	１，２回目：熱発38.0° ３，４回目：熱発39.0°	１回目：なし ２，３回目：熱発40.0°	１～３回目：頭痛，寒気，風邪症状，熱発38.0°	１～４回目：熱発38.0°

表３　新型コロナワクチン接種への態度について

	Aさん	Bさん	Cさん	Dさん	Eさん	Fさん
新型コロナワクチンを接種することに，積極的でしたか，あるいは消極的でしたか．	消極的． インフルエンザワクチンと比較して，できて間もないので心配．	消極的． 新しいワクチンなので良くないものが入っていそう．体内で良くないことが起こりそうで心配．	積極的． 祖母と同居しているので早く打ちたかった．	積極的． 理由は，接種後は，学校が休めるから．	やや消極的． 色々なニュースで後遺症などの記事を見たので．	積極的． かかったら嫌なので．

3．近い将来の新たな感染症パンデミック時のワクチン接種への態度について

今後，５年先，10年先に，新たな感染症がパンデミックになり，その対策としてワクチン接種が可能となった場合には，その接種に対して積極的，あるいは消極的のどちらかという質問に関する調査協力者の意見を表４に示した．

まず，２名が積極的な回答であった．消極的な回答は３名，何とも言えないという回答は１名であった．積極的な理由としては，積極的に接種したいこと，感染するリスクを軽減したいことが挙げられた．一方，消極的な理由としては，画期的新薬は不安であること，感覚として接種したくないこと，周りの様子を見て判断したいとするものが挙げられた．　何とも言えないという理由としては，今より科学が進歩していると思うので場合によるということであった．

4．将来のわが子への定期ワクチン接種に対する態度について

今後，結婚して親になったと仮定した場合に，わが子（赤ちゃん）に，定期ワクチンの予防接種を打つことに積極的，あるいは消極的のどちらかという質問に関する調査協力者の意見を表５に示した．

まず，６名ともに積極的であった．その理由としては，わが子にワクチンを接種するのは抵抗ないとするものや，自分も接種してきたこと，社会的要請があること，感染症への罹患の方が心配であることなどが挙げられた．

Ⅳ．考察

属性については，自宅生が６名中５名であった．吉田らが行った先行研究では，自宅生が12名中11名であったが，今回の結果についても，ワクチン接種への態度に，家族からのピアープレッシャが影響を与えたのではないかと考えられる．また，今回の調査結果においても，39℃前後の熱発などの副反応が出ており，さらに２回目の接種後において副反応の症状がより重いという傾向がみられた．この結果は，これまで

表４　近い将来の新たな感染症パンデミック時のワクチン接種への態度について

	Aさん	Bさん	Cさん	Dさん	Eさん	Fさん
今後，５年先，10年先に，新たな感染症がパンデミックになり，その対策としてワクチン接種が可能となった場合には，その接種に対して積極的，あるいは消極的，どちらですか．	消極的．すぐには打ちたくない．副反応などがでるかもしれないので，様子見をする．	消極的．できたばかりのワクチンは心配．	積極的．早く打ちたい．	消極的．新しい薬は大丈夫か少し心配．	何とも言えない．今より科学が進歩しているので場合による．	積極的．かかりたくないから．

表５　将来のわが子への定期ワクチン接種に対する態度について

	Aさん	Bさん	Cさん	Dさん	Eさん	Fさん
今後，結婚して親になったと仮定した場合に，わが子（赤ちゃん）に，定期ワクチンの予防接種を打つことに，積極的，あるいは消極的のどちらですか．	積極的．特に定期ワクチンを赤ん坊に打っても，副反応があまり出ていないので．	積極的．副反応が少ないから，子供に打たせたい．	積極的．打ってあげたい．	積極的．実績があるから．	積極的．感染で命を落としかねないので，感染を防ぎたい．	積極的．かかってほしくないので．

の研究報告結果との整合性がみられる．[8)]

新型コロナワクチン接種への態度については，吉田らの実施した先行研究の結果と同様の結果であった。すなわち，新型コロナウイルス感染予防のため速やかに接種したいという意見と，ワクチンの副反応を懸念する意見がそれぞれみられた．また，近い将来の新たな感染症パンデミック時のワクチン接種への態度についても，新型コロナワクチン接種への態度とほぼ同様の回答であった。医療系の学部では臨地実習が必須であるため，各種ワクチンの接種が強く求められる. このため大学等の高等教育機関は，ワクチン接種の利点や，副反応などについて正確な情報提供を行い，学生の不安を和らげる努力が求められていると思われる．

将来のわが子への定期ワクチン接種に対する態度については，吉田らの行った先行研究では12名ともに積極的であったが，今回の研究でも６名全員が積極的との回答であった．これらの２つの半構造化面接調査の結果から，今回の新型コロナワクチン接種への抵抗感は，ワクチン接種自体ではなく，新型コロナワクチンが革新的な作用機序をもつmRNAワクチンであり，まれに重篤な副作用が生じることや，使用実績があまりないことに対する不安感が，接種への抵抗感の要因の一つであると推察された．したがって，ワクチン接種による副反応に係るリスクについて国民に広く情報提供を行い，より積極的にワクチン接種を行うという「行動変容」を模索する必要があると考える．その際，リスクコミュニケーションにあっては，医師をはじめとした医療従事者の積極的な講師としての関与が有益である[9)]．

最後に，今回の調査研究の限界としては，半構造化面接調査の対象者数が６名であることから，大きな特徴を把握することを目的とした新型コロナワクチンに関する意識調査であることが挙げられる。今後は今回の調査結果を基に質問内容を精査しとりまとめたうえで，横断調査を実施したいと考えている。

Ⅴ．結語

今回の調査結果から，新型コロナワクチン接種については，革新的な作用機序をもつmRNAワクチンであり，副反応への不安感が強いことが見出された．国は今後のパンデミックに備えて，ワクチン接種への不安を払拭するために，まずは，できうる限りこの新型コロナワクチンの有効性・安全性に関する情報収集を行い，その結果をリスクコミュニケーションを開催して，国民に広く情報提供しておく取組みを十分に行っておくことが肝心であると考える．

引用文献

1）Bernal LJ, Andrews N, Gower C, et al. : Effectiveness of Covid-19 Vaccines against the B. 1. 617. 2（Delta）Variant. N Engl J Med, 385(7) : 585-594, 2021.

2）東京都．東京iCDCリスコミチームによる都民意識アンケート調査結果．2021．https://www.metro.tokyo.lg.jp/tosei/hodohappyo/press/2021/04/15/documents/35.pdf（アクセス日 2023．12．6）

3）東京都．新型コロナウイルス感染症対策（ワクチン）に関する意識調査．2021．https://www.metro.tokyo.lg.jp/tosei/hodohappyo/press/2021/08/26/27.html（アクセス日 2023．12．6）

4）ニッセイ基礎研究所．新型コロナワクチンをすぐには接種しない人の理由と特徴．2021．https://www.nli-research.co.jp/report/detail/id=68019?pno= 2 &site=nli（アクセス日 2023．12．6）

5）吉田佳督，吉田康子：新型コロナウイルスワクチンに対する医療系大学生への半構造化面接調査結果．修文大学紀要，13：35-43，2021.

6）元吉忠寛，平島太郎，吉田佳督：治験に対する専門家のメンタルモデル－医師と治験コーディネーターとの比較．社会安全研究，3：41-50，2012.

7）元吉忠寛，吉田佳督：東日本大震災後の放射線リスクコミュニケーション．社会安全研究，5．75-79，2013.

8）Meo AS, Bukhari AI, Akram J, et al. : COVID-19 vaccines: comparison of biological, pharmacological characteristics and adverse effects of Pfizer/BioNTech and Moderna Vaccines. Eur Rev Med Pharmacol Sci, 25(3) : 1663-1669, 2021.
9）Yoshida Y, Yoshida Y: Medical staff perceptions of risk communication needs for the public and comparison with the needs expressed by the public. Radioprotection 55(3) : 199–206, 2020.

Study on the awareness with regard to vaccination of Covid-19 among university students of medical sciences

Masaki Shimizu, Ryota Naruse, Yoshitoku Yoshida

Abstract
On May 8, 2023, Covid-19 was classified as a Type 5 infectious disease in accordance with the Infection Dieasease Law of Japan. For three and a half years, humans have been subject to many restrictions on their lives. The only effective measure against this infectious disease was vaccination. While there was a desire to get vaccinated as soon as possible to avoid the infection disease, there were also great concerns with regard to unknown side effects with mRNA vaccines. Therefore, before the awareness of this infectious disease fades, we conducted a semi-structured interview survey regarding this new coronavirus vaccine. The basic attributes of the subjects, their awareness of COVID-19 vaccinations, and their awareness of routine vaccinations for their children in the future and so forth were examined. The results of this survey suggested that the major factor behind the reluctance to receive the new coronavirus vaccine was that mRNA vaccine was produced with a new mechanism, and data on efficacy and safety were not so much sufficient.